

平成 27 年度第 1 回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成 27 年 7 月 23 日（月）午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
2. 場 所 根室市役所 3 階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】 10 名

【市 側】

総合政策部長、総合政策室長、総合政策主査、地方創生企画官
総務部長、総務課長、広報広聴主査、広報広聴担当

【会議進行】総務部長

【司 会】総務課長

4. 開会挨拶（市長）

本日は平成 27 年度、第 1 回目となる市政モニター会議に、夜間の開催にも関わらずご出席をいただきありがとうございます。

当市においては、本年 4 月から、この先 10 年のまちづくりの指針となる「第 9 期 根室市総合計画」がスタートいたしました。本計画で掲げる将来都市像である「海と大地に根ざす生産交流都市ねむろ」の実現を目指し、関連施策の積極的な展開に努めてまいりたいと考えております。

一方、政府においては昨年「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、地方創生のための総合戦略を閣議決定したところであります。今後は、地方創生に向け地域資源を活用し、地域の魅力を高めていくことが重要であり、地方には自ら積極的に考え、取り組んでいくことが求められています。

このことから現在、「第 9 期根室市総合計画」を勘案しつつ、効果の高い施策を集中的に実施するため、今後 5 ヶ年の目標や施策の基本的方向と具体的な施策を示す「根室市創生総合戦略」の策定作業に着手しているところであります。

あわせて本日説明させていただきます「根室市人口ビジョン」は、根室市における人口の現状分析とともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示したもので、このビジョンは今後の効果的な施策を企画立案する上で、大変重要なものであります。モニターの皆さんには、まず根室市の人口の現状を知っていただき、これまでの常識にとらわれない発想で、根室の将来についてご意見等をいただければと考えております。

全国的に本格的な人口減少時代を迎え、これまでの社会構造やまちづくりを転換し、時代に合わせた考え方に改めなくてはならない時期がきております。根室市は現在、ロシア 200 海里の流し網禁止問題をはじめ、人口問題や財政再建など様々な課題が山積しておりますが、こうした困難に直面する今こそ、市民協働を推進し、まちづくりを進めていくことが重要と考えております。

皆様のご意見は、今後の市政運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、本日は忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしく願いいたします。

5. 今回の会議開催方法について（事務局より説明）

今年度の市政モニター会議については、テーマを設定して実施する。現在、根室市では、「人口ビジョン・総合戦略」の策定を進めていることから、「地方創生」をテーマに取り上げることを考えたが「根室市創生総合戦略」の策定にあたっては、政策分野における5年後の基本目標の設定や、施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定することが求められるなど、市政モニター会議で議論する内容としては、馴染まない部分も多い。

そういうことから、まずは「根室市人口ビジョン（案）」について皆さんに理解いただき、根室市における人口の現状と将来の展望を踏まえた上で、どういう施策が必要なのかを考えてもらいたい。本日は、「根室市人口ビジョン（案）」の説明を聞いた後、意見交換を行う。その後、アンケートを持ちかえっていただき、回答いただいた結果をもとに、事務局で第2回会議のテーマを選定したい。

6. 根室市人口ビジョン（案）の概要について（総合政策室より説明）

7. 以下、会議詳細

●総務部長

ただいまの説明を聞いて、人口ビジョンについて、皆さんの感想やご意見をお聞きしたい。

○モニター

人口ビジョンについてだが、ページによって人口の数字が違っており、整合性が取れてない部分があるが、何か意図があるのか。

●地方創生企画官

国勢調査や人口白書、住民基本台帳のデータなどケースによって様々なデータを使っている。本来であれば国勢調査の値を使うのが一般的であるが、国勢調査については、5年ごとのデータしかないことから、最新の数字を見せたほうが良いものについては、住民基本台帳などのデータを使っている。

○モニター

わかりやすくまとめられたビジョンだと思う。子どもを産める女性を増やしたい意図などが、よくわかった。

○モニター

私は根室で生まれ、18歳で東京に行った。二度と根室には帰らないと思っていたが、ある程度の年齢になると、大自然がある生まれ故郷の根室が良いと思い戻ってきた。人口がピークの時は5万に届く勢いであったが、今ではお祭りの時でも、昔に比べ人が少なくなり、寂しい町になったと感じている。若い女性が住める町にしたい意図は理解できるが、なかなか定住しないのが現実だと感じる。

○モニター

20歳から39歳までの女性を増やすという考えで進めるということだと思うが、アンケートの結果を見ても医療、子育ての問題に非常に関心がある結果となっている。根室市としては、どこまで対応されているのか。産婦人科医の問題はどのように進んでいるのか。

●総合政策部長

直接の担当ではないので、知り得ている情報の範囲内で話すと、産婦人科医確保は、病院の最重要課題といっていいほど重大な課題である。病院としても懸命に医師の招へいに取り組んでいるが、再開のめどは立っていないのが実情である。安心して出産できる医療体制の充実が最重要であり、病院としても力をいれて取り組んでいる。

子育て世代の経済的な支援の充実については、これまで市としても支援を行ってきたが、平成27年度からは充実した形で、例えば第三子の保育料や給食費の無料化の実現、子ども医療費の拡大などに取り組んでいる。子育てにはお金がかかることから、経済負担を軽減した形で子育てしやすい環境を作りたいと、市としても先進自治体に近づくよう努力をしている。人口ビジョンの3本の柱に基づき、充実を図っていくよう今後も努力していきたい。

○モニター

こういった質問は出ると想定していたと思うが、最重要課題であれば市立病院や市民福祉部から担当職員が同席して、対応するべきではないか。

●総合政策部長

冒頭に事務局からも説明があったと思うが、今回の会議は、人口ビジョンの説明をして、中身を理解した中で、次にどういう施策政策が必要かということを議論するための場と理解している。次回担当セクションの職員が同席し議論する予定と聞いている。

●総務部長

いまの説明の通りであり、本日アンケートを配布し、皆さんに回答いただいた結果により、次回会議でテーマを絞り込んで議論する予定である。

○モニター

昭和40年に富士銀行が根室から撤退するときに、支店長に撤退する理由を聞いたことがあるが、そのときに見た数字が今回の人口ビジョンと同じような数字であった。これまでもロシアとの国際漁業は規制が続き、今回の流し網の禁漁にまで至ってしまった。規制のたびに事業所は減り、漁業者が減り、そして人口が次第に減ってきた。もう漁業はあてにできないと思う。次のテーマになると思うが。数字というのはとてもシビアなものである。

○モニター

雇用対策などの仕事づくりは重要だと思う。移住者の方の話では、移住フェアなどでは根室に来たい人はいるが、福祉、医療、そして仕事が不安で躊躇する人が多いと聞いている。そういったことから、例えば大手の企業の工場誘致や、市内企業の雇用人数を増やす取り組みなどは考えているだろうか。

●総合政策室長

企業誘致は非常にハードルが高いということをご存知のとおりであるが、その前に根室市内には雇用のミスマッチという問題がある。水産業の分野で相当数、年間25から30くらいの雇用が足りておらず、それを5年位のスパンで見ると110数人の雇用が足りていない。現実的に大手の水産加工企業が求人を出しても地元の高校生を採用できていないという実態がある。実際に求人があるところでしっかりと人を掴んでいく。また、市内でできないのであれば、その条件を広く全道、全国まで雇用環境を拡大整備しなくてはならない。今の労働条件を充実しながら、外から人を呼んできて、雇用をカバーすることが重用であり、そうすることで、少しでも社会減を抑制していきたいと考えている。

○モニター

雇用のミスマッチについては水産加工業の人気のないということの表れであり、それはイメージ的な部分が大いだと思う。悪いところばかりではないということを高校生等へも伝えて欲しい。

○モニター

高校を卒業した人が、進学で地方に行くのは仕方がないと思うが、卒業した後にいかに根室に帰ってくるができる環境を作っていくことが大切。若い人が帰って来れば、自然と町も活気づいてくると思うので、そういったことも考えていただきたい。

○モニター

20歳から24歳の女性の転出が234人で、転入が236人となっている。この状態が続くのであれば、とるべき方策はあると思う。自分たちのふるさと根室をなんとかしたいという思いは皆が持っている。

○モニター

若い女性を増やそうという考えであれば、女性と結婚する男性に根室に残ってもらわないと女性が増えても、結婚して子どもを産むという環境にはならない。流し網の禁止もあり、益々厳しくなるが、男性の働く場所を増やす必要がある。

○モニター

自分も子どもがいる立場として産婦人科は必要だと思う。先ほど、産婦人科の分娩再開は最終目標という発言があったが、母親からすれば、分娩ができるようになってからがスタートラインである。やはり市民と市では意識に差がある。外から医者を呼ぶのではなくて、例えば、市民に対し、市が金銭的に支援をする代わりに、医学を学び、産婦人科医として10年20年は根室にいてもらうなどといった手段も必要だと考える。

漁業が先細りしているという意見があったが、自分は沿岸漁業者であり、根室はまだ沿岸漁業がしっかりしているので、人口はある一定の水準で止まると思っている。楽観的かもしれないが、一次産業の沿岸漁業があれば、やっていけるという考えがどこかにある。

●総合政策部長

産婦人科の分娩再開については、最終目標ではなく最重要課題だと申し上げた。私事であるが自分も去年、子どもが生まれ、市の病院がどういう状況となっているかを身にしみて感じた。市内で分娩ができないという不安を家族皆が感じた。今後、自分の体験を踏まえて病院に意見を、言っていきたいと考えている。

○モニター

厚床で酪農をやっている。新規就農ということで4年前に根室に来た。これまでも道内の町を色々回ったが、根室は最終的に就農することができた土地ということもあり、大好きである。そのなかで、根室の人口減少を考えると、雇用のミスマッチというのはひとつの要因としてあると感じている。自分の周りの酪農者は、人を雇いたくて募集を出しても、労働条件の悪さもあり、ほとんど応募がない。酪農は戸数が減っているといっても産業全体としては急激に落ち込んでいるわけではないので、もっと人を入れることのできる政策はないものか。新規就農で酪農がしたい若者は道内に多くいる。そして根室の農家では離農が続いている。そういったミスマッチを少しずつでも丁寧に解消していけば、町が面白くなっていくと思う。

●総務部長

その他、全体をとおして意見があれば伺いたい。

○モニター

資料については事前に配布しており、出席者はみんなが見ている前提で会議を行っているのであれば、説明の時間が長すぎ、意見交換を早く切り上げたいというように見える。説明はもっと割愛し、意見交換をメインでやればよいと感じた。

●総務部長

今回の会議は、根室市人口ビジョンについて、モニターの皆さんに知っていただくことに重点をおき、その上で次回以降、議論を深めていきたいと考えていた。本日配布しているアンケートに回答いただき、抽出して次回のテーマを設定する予定である。

●総合政策室長

先ほどから、このビジョンは予測であり現実とは異なり、どこかで人口減少は止まるといった意見があったと思うが、我々は非常に精度の高いビジョンであり、これを受入れるところから、はじめなくてはならないと思っている。このビジョンは予測ではなく、データに基づいた推計である。これまでも市民に案内してきたが、ほとんどが受入れるのに時間がかかっている。机上の空論という意見もあると思うが、どのくらいの人を受入れざるをえないと考えているだろうか。

○モニター

この推計は、流し網中止の影響や、北方領土がかえってきた場合の影響などは考慮していないということか。

●総合政策室長

過去のデータにもとづき、科学的に行っているので、そういった経済的影響は考慮していない。当然、サケマス流し網の禁止などの経済的影響は間違いなくあるが、それが、半年後なのか、1年後なのか、10年後なのか、いつ出てくるかは誰にもわからない。過去の科学的データに基づき推計するとうなるということである。

○モニター

自分の周りを見てみても、自分の兄弟やその子どもでも結婚していない人が多い。結婚していても離婚したという人も多く。今後、人口は確実に減っていくと思う。

○モニター

自分は実際に、出産年齢であり、移住者ということもあるが、客観的にこのビジョンを見て、かなりの確実で、このようになると感じている。

●総合政策室長

それでは、次に何をしなくてはならないかというのはイメージできるだろうか。

○モニター

人それぞれで違う意見があると思うので、次回以降その中から考えられていくことと思う。

●総合政策部長

今回、市政モニター会議で人口ビジョンについて説明する機会をいただきありがたいと思っている。やり方を変えて、はじめての市政モニター会議ということもあったが、会議の進行がうまくいかなかったものと感じている。次回以降は市政モニターの皆さんに、会議のあり方をしっかりと理解してもらい、事務局で会議が円滑に流れるようにしてほしい。

また、市政モニターの皆さんにもお願いがある。これまでの市政モニター会議は、要望、苦情に対し、市の部長が答えるという構図が長年続いていて、本来の趣旨である意見、提言をいただいて市政施策に反映するという部分が欠如していた。それで今年度から、新たな試みを本格的にはじめた。本日の人口ビジョンの説明を聞いて、個々で感じることは違うと思うが、是非、それぞれのテーマに向かって、市政に反映して実現できるような施策事業を提言していただきたい。そうすると我々としても大変ありがたいし、市民目線での事業ができていくということにも繋がる。行政のやり方に意見することも大事ではあるが、様々な課題を踏まえ、どういったことが必要なのかという議論を活発化して欲しいので、皆さんの力をかしていただきたい。

8. 閉会挨拶（総務部長）

本日は、長時間にわたり、貴重なご意見などをいただき誠にありがとうございました。

【事務局から連絡】

本日、人口ビジョンを知っていただき、今後の人口に関する認識を皆さんと共有して、今後、どういう施策、事業が必要なのかということ、次回以降話し合っていきたいと考えている。本日、配布しているアンケートの回答をよろしくお願ひしたい。